

## I. はじめに

### 多様なニーズ・状況に即応可能な教育環境・支援の充実に向けて

高等教育研究開発推進センターは、国立大学法人の第3期中期目標・中期計画期間において、京都大学の教育改革・改善をより広範にわたって一層強力に支援・推進するため、以下の新たなミッションと共に、2016年度から「全学機能組織」として再出発しており、今年度で4年目になります。

- 高等教育における教授法、教育課程、教育評価、教育制度、ICT活用等、教育システムにかかる開発と実践を行う。
- 本学の教育改革・改善に資する取り組みについて、専門的立場から調査・企画・実施・評価・助言・協力をを行う。
- 実践的研究に基づく成果を、本学の教育の質の向上に供するとともに、国内外の高等教育の発展に寄与する。

現在、本センターは、「高等教育教授システム研究開発部門」、「教育メディア研究開発部門」、「教育アセスメント室」の2部門・1室から構成されており、様々な教育支援の取組や産学共同研究プロジェクト等を通して、多面的・創発的な教育改革・教育改善に取り組んでいます。この「CPEHE Annual Report」では、学内各部署や関連諸機関との連携を通じた先進的・萌芽的な試みも含め、本センターの様々な活動や事例が具体的に紹介・報告されています。

近年、本センターは、長年に渡って開催されてきた「全学教育シンポジウム」、「新任教員教育セミナー」、「大学院生のための教育実践講座」等の全学的FDの支援に加えて、出来るだけ多くの学内部局やプロジェクトと連携し、それぞれのニーズに合った教育支援を行うことに尽力してきました。

例えば、FD・教育改善支援については、文学研究科プレFDプロジェクト、薬学部におけるアクティブラーニングを取り入れた初年次演習科目の授業改善、学生の学習実態調査の支援、宇宙総合学研究ユニットとの連携による「有人宇宙活動のための研究教育プログラムの開発と実践」のカリキュラムや評価のデザイン支援などに取り組んでいます。

ICTを利用した先端的な教育・学習支援については、各部署のオープンコースウェア(OCW)や大規模オープンオンライン講義(MOOC)の取組状況や、本学の学生・高校生・社会人に向けたオンライン講義・SPOC(Small Private Online Course)等、より柔軟・多様で拡張的な教育・学習方法を実現するオンライン講義・教材の活用取組について、様々な活用事例とその効果・成果と共に本報告書で詳しく紹介されています。

また、京都大学の教育におけるICT活用と展開に関する多様な取組の具体的な事例紹介や支援に関する情報が網羅されているポータルサイト「CONNECT」や、本学のオープンな教育コンテンツの活用促進によって高大接続・高大連携を支援するポータルサイト「KNOT」も、是非併せてご参照・ご活用いただければ幸いです。

さらに、学内の各教育支援組織・部局との連携を通じて全学・各部署の教育学習改善支援の一翼を担う本センターの教育アセスメント室の活動として、認証評価や法人評価への協力、医学部の教育の質評価の支援、教育学部との連携による学生調査を核とした組織的教育改善、特色入試入学者を対象とした追跡調査や内部質保証等の支援、MOOC・SPOCのコースレポートの作成と講義担当者へのフィードバックや学習データに基づくコース改善等についても報告されています。

最後になりましたが、本報告書で網羅されている諸活動やウェブサイト(<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp>)等を通じ、本センターが、今後とも本学の教職員や各部署の抱える様々な教育的課題の解決・改善のお役に立てれば幸いです。本センターの活動と展開に、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



京都大学高等教育研究開発推進センター長  
飯吉 透